

安来節で「地域愛」を育てたい

日本民謡協会・安来節保存会

八谷恵子さん（頼原）

とんぼらふる里夏祭りや志々公民館まつり、福祉施設の敬老会、地域のサロンなどで銭太鼓や三味線・唄などを披露している八谷さん（野坂流「野坂恵子」で活躍）は、町を元気に、そして観ている人を笑顔にしています。



とんぼらふる里夏祭りにて



笑顔が素敵な八谷さん

伝統文化を継承したい

安来節は、先人が残してきた大切な宝で、絶やしてはいけない島根の伝統文化です。飯南町でも根付いていた時代があるので、家で眠っている三味線もたくさんあるようです。子どもたちは保育所などで銭太鼓を体験しているし、そこで終わってしまうのはとても残念です。身近にふれる機会があれば、興味を持ってくれる子どもがいると思います。

失敗してもいいんだよ

今年度は、交流センターとんぼらで子ども向けの教室を開催しました。10月15日の公民館まつりでの発表に向けて

練習しています。練習では、技が上達するだけでなく、礼儀やマナーが自然と身につきます。

子どもたちに一番伝えたいことは、「間違えても、落としても大丈夫だよ」ということ。失敗しても止まらずに次に進むことの大切さを、民謡を通して学べたので、今度は私がそれを伝えていく番だと思います。

これからの目標は？

私が病気や挫折をした時、民謡の仲間がいたことで救われました。他地域の子も同士が民謡を通して交流し、刺激合う仲間となり、心のよきところになります。子どもたちにもそうしたつながりをつくって欲しいです。

民謡は年齢を問わずできるので、世代を超えて取り組めるといいなと思っています。高齢者と孫世代が一緒に舞台上に立つというのも素敵ですよ。ね。「練習している子どもたちの様子を見学に来てください」というお手紙を地域の人に出したいです。かわいい姿を見て



安来節も唄います



公民館まつりに向けて練習中

癒される、高齢者の楽しみの一つになるといいですね。観てもらい、褒めてもらえると、子どもたちのやる気も上がります。話し相手、相談できる人が地域にできるといいう相乗効果も期待できるので、「安来節を続けたいから地域に残る」という子を増やしたいと思っています。

今月の表紙写真



「介護職員の頃、『入浴が嫌だ』と言っていた人も、民謡を唄って楽しい雰囲気をつくると入ってくれることができました。安来節などの民謡は会話のきっかけにもなります。『子どもたちの発表の場をぜひうちで』という福祉施設からの声もいただいています。驚くような速さでご縁を広げている八谷さんからは、みなぎるパワーが感じられました。

《キラリ★飯南人》募集中

「明日を拓く」で取り上げてほしい個人・団体などの情報をお寄せください。議会広報委員が取材に伺います。

《応募先》飯南町議会事務局
0854-76-2190